

会 報



平成11年度 日本生物工学会 年次大会 後記

日本生物工学会の平成11年度大会は平成11年9月16日（木）より18日（土）まで、関西大学で開催された。3日間にわたって一般講演544件、シンポジウム68件、招待講演4件、授賞講演6件合わせて622件の講演が行われた。参加者人数は正会員896名、学生会員351名、非会員127名、合計1374名であり、かなりの盛況であった。

また、展示会は37社の協力を得て、大学内誠之館を会場として行なわれた。

第1日には、午前中に授賞式があり、吉田敏臣会長挨拶、授賞選考経過報告のあと、生物工学賞（石崎文彬氏）、江田賞（秦 洋二氏、石田博樹氏）、斎藤賞（栗木 隆氏）、照井賞（本多裕之氏）、技術賞（米原 徹氏ら、上山宏輝氏ら）、論文賞（森川正章氏ら、加藤勲氏ら、手嶋直育氏ら、善本裕之氏ら、ダニエル・G・モラン氏ら）が授与された。また、今年度、新たに設けられた学会活動の支援に特に貢献の高かった方におくられる感謝状が山懸民敏氏に授与された。ついで、石崎文彬氏より「嫌気性微生物による有用物質生産に関する生物工学的研究」と題した生物工学賞受賞講演があり、さらに米原 徹氏より「代謝工学的手法によるビルビン酸発酵生産法の開発」、堀田康司氏より「光合成細菌変異株育種による5-アミノレブリン酸の工業的生産」と題した技術賞受賞講演がそれぞれ行なわれた。

初日午後より第3日までの一般講演、シンポジウム、受賞講演（江田賞、斎藤賞、照井賞）、招待講演いずれも例年通りプログラムに従って盛況裏に滞りなく進行した。平成11年度大会の特徴を思いつくまに列記する。

1) 平成11年度は関西大学にある大きな教室を十分使えたお蔭で、100周年記念会館を含めて15会場を設けることができ、講演がゆとりをもって聴くことができた。ただ、シンポジウムについてはどの会場も大幅な時間の超過があった。シンポジウムの演者に対する講演時間および質疑応答の連絡が不徹底であったためと思われる。しかし、質疑応答が長いということはそれだけ関心が高いということの意味しているので、オーガナイザーの方がこれらのことを考慮に入れてプログラムを組めば解消されると思われる。



受賞のみなさん

2) 今年度より本学会でも大会の参加申し込みに電子登録を導入した。その結果、一般講演申し込み数の約80%に当たる430件がオンラインによって行われた。当初危惧していたようにオンライン入力の際の誤りの修正、オフライン投稿分の手入力など多くの手間がかかったが、担当者の努力により無事に終えることができた。問題点のうち、ハード面で解決できる点については完了したが、発表者が入力に必要な説明を十分読まずに入力したことによるミスが目立った（ミスの中の約20%）ようなので、この点については十分徹底していただきたいとの担当者からの要望があった。

来年度もひきつづき電子登録を続けていかれるとの意向であるが何回か続けるうちに、入力の誤りも少なくなり効率も上がるであろうと期待される。

3) 展示に関しては、不景気にもかかわらず37社という多数の企業の方々に参加していただいた。会場の場所や広さも適当であったため、入場者数も多く、参加企業の評判も良かったようである。

4) 第2日の夕方に関西大学100周年記念会館ホールにて懇親会が開かれたが、当日は俄雨があったにもかかわらず、約440名もの多数の参加者があり大盛況のうちに終了した。

会場も大きく、これだけ多くの参加者があったにもかかわらず落ち着いた雰囲気で行なわれたことは会場を提供していただいた関西大学のお蔭であり、ここに深く感謝する次第である。料理も好評であり、また多数の会社からご寄贈いただいたお酒、ビール、ワイン、ソフトドリンクも大変好評であった。懇親会場では昨年結ばれた日本と韓国との生物工学会間の学術交流協約に基づいて招かれた韓国の研究者との懇談も行われ、さらに親睦が深まったという印象もあった。また、平成12年度大会は北日本支部主催で行われる旨、富田房男先生のご挨拶があった。

5) 生物工学若手研究者の集いが例年のごとく第1日夕方から開かれ、約80名の参加者があり大いに盛り上がったが、参加者のほとんどが大学関係者であり、会社で研究されている若手研究者にももっと参加して欲しいとの意見があった。

6) 本学会活動を地元市民に理解して頂くため、市民フォーラムを企画し、日本学術会議・微生物学研究連絡委員会と共催して「生物工学に託す21世紀—地球にやさしいバイオテクノロジー」を3日目の9月18日（土）午後、関西大学百周年記念会館で開催した。新名惇彦氏、小幡 斉氏、倉根隆一郎氏、木村 光氏、宮田 満氏に講演を依頼したが、約140人の参加者があり、質疑応答が熱心に行われた。一般市民の方の参加がやや少ないように感じられたが、今後このような市民フォーラムを企画する場合、一般市民への宣伝方法を検討する必要があるという意見がでた。

今回の大会は本部に近いこと、交通の便が良かった等から、非常に盛況の中無事終了することが出来た。本部をはじめ各方面から多大のご協力と適切なお助言をご教示いただいたこと、とくに会場を提供いただいた関西大学の皆様には、いろいろな面からご援助いただきましたことに対しまして、この誌面を借りまして厚くお礼申し上げます。

平成11年度大会実行委員長 菅 健一

第6回囲碁大会報告

標記大会を大会前日の9月15日ホテルマール（南千里）で開催した。今年は、参加者が多く3つのクラスに分けて優勝を争い、各優勝者によってグランドチャンピオンを決めることにした。

各段の優勝者は、Aクラス鈴木 修氏（広大）、Bクラス土佐哲也氏（田辺製薬）、Cクラス丸山明彦氏（協和発酵）であった。戦いは進んで土佐氏と丸山氏の決戦となり、観戦者がかたずを呑んで見守るなか、終盤のわずかな隙を突いて土佐氏が昨年の準優勝の屈辱を晴らし見事優勝した。局後の検討では、どちらにも大きなミスがなく、プロ並の対局であった。丸山氏の切れることのない果敢な攻めを封じた、土佐氏の攻守における柔軟さと冷静な大局判断は好評であった。



囲碁大会会長杯授賞

なお、開催に当たって㈱千代田製作所、サクラ精機㈱、エーイー企画、協和発酵、江崎グリコ、森下仁丹、東洋紡績の各社からご芳志を頂きました。

委員長 岡崎光雄（信州大学教授）
幹事 黒岩 巖（千代田製作所）

平成11年度 第3回和文誌編集委員会議事録

1. 日 時 平成11年9月16日（木）12時～13時
2. 場 所 関西大学100周年記念会館 会議室
吹田市山手町3-3-35（TEL. 06-6386）
3. 出 席 吉田 敏臣・*谷 吉樹・*西山 徹・新名 惇彦
福崎英一郎・吉田 和哉・高田 洋樹・阪井 康能
川崎 浩子・出井 晶子・江崎 聡・中嶋 幹男
鈴木 伸昭・*片倉 啓雄・*園元 謙二
松本 邦男（代理：佐藤誠吾）・河合 啓一・疋田 正喜
新 隆志・*田中 重信・*岸本 通雅・池 道彦
内山 圭司・桂樹 徹・加藤 高明・中山 亨
赤塚 浩之・青柳 秀紀・溝口 晴彦・*浅野 泰久
*三吉 新介 *印 委任状

配布資料

- （資料1）生物工学会誌編集予定表（1999, 2000）
（資料2）編集委員、電話・ファックス・e-mail一覧

4. 議題および審議内容
1) 平成11年度編集状況報告

*資料の通り

2) 平成12年度編集計画

*「生物工学の20世紀を振り返って（仮題）」を検討した。その結果、別途、実行組織を構築することを決めた。

*その他

3) 誌上モニターの件

*新名委員長より、標記設立の経緯、役割、運用に関する説明があり承認された。

4) 和文誌の今後の方向性

*新名委員長より、標記に関する私見の表明あり、将来的には、生物工学会会員のみならず、高校の先生その他の関連各位に広く読まれる雑誌づくりをめざしたい。

5) バイオメディアについて

*委員執筆は必須ではない。

*理解を助けるために図・表（1, 2枚以内）を積極的に用いていただきたい。

*読者を当該分野の専門家以外と考えて欲しい。

*執筆依頼用和文誌サンプルが入用の場合は学会事務・片山まで申しでる。

6) 和文誌に関する意見

*E-mailにて募集する。どんどん意見をお願いしたい。

7) 研究助成と生物工学会の関係に関して

研究助成の募集の中で、1)学会に推薦を依頼している、2)学会推薦を優先している、3)推薦に関しては明記していない、4)沢山の応募者を募るために学会に掲示を依頼している、など色々あると思います。1), 2)に該当するものは学会で予備審査や、順位を付けるなどの作業をしなければなりませんので、塩谷先生に連絡して下さい。単なる募集は今までどおりで可。

8) その他

*生物工学と文誌の活性化意見

*生物工学会と地域産業の結びつき考える

*中小企業へのアドバイス

*和文誌のみ低価格販売の可能性

第2回 英文誌編集委員会議事録

1. 日 時 平成11年9月16日（木）12時～13時
2. 場 所 関西大学100周年記念会館 会議室
吹田市山手町3-3-35（TEL. 06-6388）
3. 出席者
委 員：秋田 修・伊東 信・江崎 信芳・太田口和久
金川 貴博・金子 嘉信・川崎 東彦・高木 睦
中野 秀雄・長棟 輝行・福田 秀樹・宮本 和久
村田 幸作・築瀬 英司・山田 隆・横田 篤
加藤 暢夫（委員長）・谷 吉樹（副会長）
*神崎 浩・*小林 達彦・*新名 惇彦・*鈴木健一朗
事務局：柴野 寛子・澤住 文子

*印 委任状

4. 議事の経過および結果

- I 第1回編集委員会議事録の確認
- II 議 題

- 1) 平成11年度上半期編集状況報告(資料による)
・投稿数, 掲載数ともに順調に推移している.

2) 本年度編集計画

1. Noteの長さについて

編集委員のおひとりから, 事前に以下の意見があった. 内容は, Noteの長さが規定をはるかに超えているものがあるが, 規定が明記されているからにはそれを遵守すべきである. ある基準をもって, 編集系の段階で判断し, 大きく超えることが明らかな場合には, 著者に返すべきではないか, というものであった.

このことについて検討し, 以下のような統一の見解を得た.

- (1) Noteの長さの規定(原稿10枚)は守るべきである.
- (2) 英文誌のページ数が増加し, 学会の経理を圧迫している現状から考え, Noteの長さは規定を守るべきである.
- (3) 大きく超えることが予想される, あるいは, 長さについて配慮されていない場合には, 編集委員に送る前に編集係より著者に返送する.
- (4) 編集委員の段階でもNoteの長さについてチェックする.
- (5) 今後検討すべきことではあるが, 従来英文誌のNoteにはかなり長いものも掲載されていた. 超過料金の制度を導入し, 長さについては審査の段階で厳しくないことも一考である.

2. 目次の見出しについて

・前回の委員会での提案を受け, 見出し項目を検討した.

- (1) 以下の見出しをつける. ① Review, ② Genetics and Molecular Biology, ③ Enzymology and Protein Engineering, ④ Microbial Physiology and Biotechnology, ⑤ Brewing and Food Microbiology, ⑥ Environmental Biotechnology, ⑦ Biochemical Engineering, ⑧ Plant Biotechnology, ⑨ Animal and Biomedical Engineering, ⑩ Methods, ⑪ Miscellaneous, ⑫ Note
- (2) 次の巻(Vol. 89)より, 投稿段階で著者に, 上の見出し項目に従って明示してもらう. 送り状のフォーマットを作り替える必要がある.

3. Reviewについて

(1) 経費について

理事会等で前回の編集委員会からの意見を申し述べたが, 本年度は予算を計上しておらず, 予算化することは困難な状況であり, 次年度以降に予算化を検討したい, とのことであった.

(2) 投稿について

Reviewは編集委員会から依頼するとともに, 投稿を奨励する.

(3) Vol. 89以降のReview執筆依頼をする.

3) その他

なし

平成11年度 第4回理事会議事録

1. 日 時 平成11年9月17日(金) 12時~13時
2. 場 所 関西大学100周年記念会館 会議室
吹田市山手町3-3-35 (TEL. 06-6388-1137)
3. 出席者 吉田 敏臣・谷 吉樹・*西山 徹・飯島 信司
*石川 雄章・*今安 聡・五十嵐泰夫・*江崎 信芳
大竹 久夫・加藤 暢夫・川崎 東彦・*北村 勲平

木田 建次・木下 晋一・*向阪 正信・塩谷 捨明
新名 惇彦・*隅野 靖弘・原島 俊・松永 是
監事 *永見 憲三・松村 正利

*印 委任状

4. 議事の経過及び結果

塩谷捨明庶務担当理事は, 理事・監事の出席者数(本人出席14名, 委任状8名)を確認して理事会の開会を告げた. 続いて吉田敏臣会長の挨拶があり議事に入った.

第1号議事 平成11年度上半期事業報告の承認について

- 1) 庶務・事業報告: 塩谷捨明庶務担当理事は, 資料 p. 1~6 に基づいて本部と支部の事業, 会議開催状況および会員異動状況について報告した.
- 2) 和文誌編集報告: 新名惇彦編集担当理事は, 資料 p. 7 について原稿受付状況および投稿数と掲載数について報告した.
- 3) 英文誌編集報告: 加藤暢夫編集担当理事は, 資料 p. 8 について原稿受付状況および投稿数と掲載数について報告した.
- 4) 会計報告: 飯島信司会計担当理事は, 資料 p. 9~10 および月計表に基づいて収支計算書, 貸借対照表, 正味財産増減計算書および月計表による収支について, 現在まで正常に推移していると報告した.
- 5) 監査報告: 吉田会長は, 松村監事に経理および事業の全般について, 監査状況を伺ったところ, 現在までのところ問題点は見当たらないように思うと述べた.

議長は, 第1号議事について承認を求めたところ, 異議なく承認した.

第2号議事 新規事業企画委員会設置について

吉田会長は, 今期の活動強化について, その内容は本年度の第2回および第3回常任理事会の議決の通りであるが, 更に去る9月9日開催した新規事業企画委員会(仮設)の会合で, 産官学共同の事業化および支部活動強化の企画・推進役を担う新規事業企画委員会(案)の設置が必要不可欠であると述べ, 新設することについて提案説明を行った.

吉田議長は, 提案説明に基づいて意見を求めたところ, 原案の通り事業計画案および委員案などが承認された.

第3号議事 研究部会申請の承認について

塩谷庶務担当理事は, 資料に基づいて「ゲノム工学研究会」の申請について, 提案説明を行った.

議長は, 提案に基づいて承認を求めたところ, 研究部会費の交付金は, 今期は見送り新年度の申請時に考慮することとし, 今期は活動のみを承認することにした.

第4号議事 新入会員申請の承認

塩谷庶務担当理事は, 資料に基づいて平成11年8月末日までに入会の申請者(正会員36名および学生会員116名)の承認申請を行った.

議長は, 申請に基づいて承認を求めたところ, 異議なく申請者全員を承認した.

第5号議事 その他

以下の事項が協議の上, 承認された.

- 1) 平成12年度大会を8月3~5日, 北海道大学で北日本支部運営で開催することを決めた. なお, シンポジウムの申し込み締切日

を本年10月中旬とし、関連部（支部長、研究部会、共済団体）に連絡することとした。

- 2) 「生物工学の20世紀を振り返って」(仮題)を出版することを決めた。
- 3) 次回常任理事会は、11月12日三重大で開催することを決めた。

平成11年度 第2回評議員会議事録

1. 日 時 平成11年9月18日(土)12時～13時
2. 場 所 関西大学100周年記念会館 会議室
吹田市山手町3-3-35 (TEL. 06-6388-1137)

3. 出席者 浅野 泰久氏 他53名

4. 議事の経過及び結果

塩谷捨明庶務担当理事は、委任状を含め2分の1以上の出席者数(本人出席54名、委任状63名)を確認し評議員会の開会を告げた。また、定款に従い議長を選出を諮ったところ、大嶋泰治氏を全員一致で選出した。続いて議長および吉田敏臣会長の挨拶があった。議長は議事録署名人に荒井基夫および山田靖宙の両氏を指名して議事に入った。

第1号議事 平成11年度上半期事業報告の承認について

- 1) 庶務・事業報告：塩谷捨明庶務担当理事は、資料p.1～6に基づいて本部と支部の事業、会議開催状況および会員異動状況について報告した。また、昨日の開催された理事会で、以下の事項が承認されたことを報告した。(1)平成11年度上半期の事業報告 (2)新規事業企画委員会の設置 (3)新研究部会の設置 (4)平成12年度大会(於：北海道)の開催 (5)新入会員申請 (6)「生物工学の20世紀を振り返って(仮題)」の出版
- 2) 和文誌編集報告：新名惇彦編集担当理事は、資料p.7について

て原稿受付状況および投稿数と掲載数について報告した。

- 3) 英文誌編集報告：加藤暢夫編集担当理事は、資料p.8について原稿受付状況および投稿数と掲載数について報告した。また、メドライン登録申請は、目下慎重に申請書を作成中であると報告した。
- 4) 会計報告：飯島信司会計担当理事は、資料p.9～10に基づいて収支計算書、貸借対照表、正味財産増減計算書などの収支・財産の明細を説明し、現在まで正常に推移していると報告した。

議長は、第1号議事に対し承認を求めたところ、全員挙手にて承認した。

第2号議事 新規事業企画委員会設置について

吉田会長は、今期の活動強化について、その内容は本年度の第2回および第3回常任理事会の議決の通りであるが、更に去る9月9日開催した新規事業企画委員会(仮設)の会合で、産官学共同の事業化および支部活動強化の企画・推進役を担う新規事業企画委員会(案)の設置が必要不可欠であると述べ、新設することの提案説明を行った。

吉田議長は、提案説明に基づいて意見を求めたところ、理事会承認の原案の通り了承された。

第5号議事 その他

議長は、以上の報告、提案およびその他学会全般について、意見を求めたところ、以下のような意見があった。1)年次大会や種々の講演会等でリクルートのコーナーを設置してはどうか 2)学会は、産業界の長期不況により経理および事業全般が不安定になりつつある。従って常に密な予測を立てて見直しを行い、いかなる変化にも対処可能な体制を目指して欲しい。